



● 今月のご紹介者

株式会社 レイホー製作所 代表取締役社長 田中 喜佐夫 氏

『日本企業はモノづくり至上主義で生き残れるか』

著／フランシス・マキナーニー 出版社／ダイヤモンド社



【概要】

日本製造業は待ったなしの改革を迫られている。とくに電機業界などが不況の嵐に呑みこまれる中、日東電工など、グローバル化に着実に成功しているメーカーもある。その違いは、顧客情報をいかに早くキャッシュに変えるかにある。いま求められるのは、製造のマネジメントから販売のマネジメントへの転換である。

Q1：この本を手にとられたきっかけについて

かつて「失われた10年」が話題となり「漠然とものづくりの未来に不安を感じる」中で、経営に関する歴史や経営手法などを読みながらも、どれもリアルに引き付けるものはなく、日々モノづくりの環境が大きく変わり、焦りとも感じていた時に、セミナーで話が出たのが本書を手にしたきっかけです。

Q2：この本をお薦めしたい理由について

著者は外国人ですが、日本経営の根幹(良くも悪くも)をシビアに捉えた人で、今後の社会変革(人工知能を含めたIoT社会)におけるモノづくりの解ともいべき示唆があります。本書の結論はシンプルで、『すべての現場(顧客市場と自社の接点)で、顧客情報をいかに早くキャッシュに変えるか?』にあり、「製品自体ではなく顧客とやり取りするプロセスこそが、すべての市場の利益の発生源」とまで言い切っています。この実現には、「同時に進める1つとして外せない10の提言」

があり、「競合他社(市場)よりも先に、顧客情報をキャッシュに変えることで企業価値を大いに上げる!」という、まさに中小企業が考え直さなければならない課題ではないか、と考えます。

Q3：どういった方にお薦めしたいですか

あらゆるサービス(モノづくりを含めた)に携わる、すべての部門のリーダー・マネージャー、とりわけ経営者にお薦めします。現在はコロナ禍や地政学的な経済動向にとどまらず、社会や人類が経験したことのない変革が起こっていますが、「変化の中で進化していくのが人類の定め」と捉え、読んでいただければと思います。

株式会社 レイホー製作所

本社：大阪府摂津市鳥飼中3丁目9-29

資本金：1,500万円

事業内容：炭素黒鉛材を使用した機器・部品製作